



奉仕を通じて平和を

山形南ロータリークラブ会報

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 2800

RI会長/田中 作次 2800地区ガバナー/和田 廣 ガバナー補佐/武田 秀則
 会長/川合 賢助 幹事/金田 亮一
 クラブ会報委員会 委員長/神崎 祐子
 委員/堀 是治 阿部 浩一 相沢そのみ 坂入 文人 浅野 裕幸

第1971 回例会

2012-11/20 (火) 天気(晴れ)

□例会場：ホテルキャッスル

□司会進行 (SAA)：渋谷 一男君

□点 鐘：PM12:30 川合 賢助 会長

□ロータリーソング：「我等の生業」

会長挨拶

— 「南洲翁遺訓」から学ぶ —



「今こそ、日本人一人ひとりが精神的な豊かさ、美しく上質な心をいかにして取り戻すかを考えなければならぬ」

京セラ名誉会長稲盛和夫氏が西郷南洲の教えに学ぶ「人生の王道」という自著で語っている。本日皆さんに配布した「南洲翁遺訓」(勅荘内南洲会発行)を座右に置き読み返し、経営者としての倫理・道徳を学び維持しているということである。本日は、資質の向上と倫理高揚のために、和田英光氏にそれを解説して戴

きます。

戊辰戦争で庄内藩に寛大な処置をとってくれた恩義に感謝し、その後西郷の教えを仰ぎ庄内藩士がまとめた講義記録集がこの「遺訓」である。南洲神社は酒田市飯森山のふもとに西郷隆盛と藩の長老で菅実秀を祀って昭和51年に創建されている。日本人の心のよりどころとなっている。

折しも衆議院の解散劇が16日突如発生、12月16日投票という選挙がくり広げられようとしている。12月の年末商戦に水をさすことでしよう。国会議員は特に古典を学んで欲しいと念願するところです。

幹事報告

金田 亮一 幹事

- 13日・14日の中津訪問について
 福岡空港までのお出迎え、お見送りと終始中津ロータリークラブの歓迎振りには敬服いたしました。13日の夕方には歓迎会をしていただき、25名の会員の方々が出席され、普段はなかなか口にできない新鮮な海の幸やから揚げ・お酒などたくさん頂き心身共に中津を堪能することができました。また、14日の通常例会に出席し、当クラブ創立40周年式典・祝賀会への参加の御礼と7月の豪雨災害のお見舞いを述べてまいりました。
 中津RCの創立60周年記念式典・祝賀会は、12月に入ってから実行委員会を立ち上げるということで、日程等は未定ということですが、26年の5月あたりに行いたいということでありました。12月に入り決定次第連絡を頂戴することになっております。
- 来週、28日(火)は三津屋本店において、ロータリー財団・米山奨学会例会となっております。19日までの出欠確認となっておりますが、まだ提出なさっていない方がおります。早急に提出をお願いいたします。なお、27日(火)は、28日に振替で休会ですのでお間違えのないようお願いいたします。

委員会報告

- ニコニコBOX 伊藤 誠君
- 川合 賢助 君 中津ロータリークラブに行って参りました。あたたかい歓迎をしていただきました。ありがとうございました。
 - 布施 富将 君 和田先生の講演は今年3回目です。いつもありがとうございます。
 - 金子 靖二 君 和田先生とは10数年のお付き合い、ありがとうございます。
 - 金田 亮一 君 長いお付き合いをしていただいている、和田先生。いつもありがとうございます。
 - 相沢そのみ 君 先日、新聞にて紹介していただきました。ありがとうございました。
 - 松田 勝彦 君 広島に行ってきました。大変貴重で興味深い体験をありがとうございました。
 - 浅野 裕幸 君 先日、介護施設「暖家」を開所いたしました。ご協力ありがとうございました。
 - 長沢 一好 君 介護施設「暖家」でお仕事しました。ありがとうございました。



例会場/ホテルキャッスル 例会日/毎週火曜日 12:30~13:30

事務所/山形市十日町1-1-26 歌懸稲荷神社 事務所ビル2F Tel.023-632-7777 Fax.023-624-5200

山形市内 例会日案内

月曜日
山形西 山形イブニング

火曜日
山形中央

水曜日
山形

木曜日
山形北

金曜日
山形東

経営者としての 西郷南洲翁遺訓との接点

おやじ日本理事・おやじ日本山形

代表世話人 和田英光氏



1. 庄内藩と南洲翁とのかかわり、そして何故遺訓は生まれたのか
 ・庄内藩は現在の鶴岡市・酒田市の地域ですが、徳川幕府の譜代大名で14万石、藩主は酒井家でした。長岡藩、会津藩とともに、戊辰戦争三強と言われた庄内藩が降伏したのは明治元年9月26日のことでした。

・江戸市、取り締まりの任にあった庄内藩は慶応3年12月、江戸、薩摩藩邸を焼き討ちにした経緯もあり、報復処分を覚悟したのですが、時の官軍参謀黒田清隆（薩摩藩）は極めて寛大な処置を取り、武士道にのっつって、恥辱を与えることをしなかったのです。

このことが西郷隆盛の内示によることを知った庄内藩は、西郷に対する尊敬の念を深め、明治3年8月、酒井忠篤公は家臣に親書をゆだね島津忠義公と西郷隆盛に送ったのですが、11月には忠篤公自らが近侍および選抜の76名を率い、兵学実習のために鹿児島を訪ねた。薩摩藩では暖かくこれを遇した。

・皆さんのなかには司馬遼太郎の「峠」と言う本を読まれた方もおられると思いますが、舞台は越後の長岡藩。戊辰戦争にて官軍と対峙したわけですが、その時に官軍の軍監として派遣されたのが岩村精一郎、相手をしたのは時の長岡藩の家老の河井継之助でした。

河井は長岡藩の意図するところを中央に取り次いでくれるように歎願するも、軍官の岩村精一郎（土佐藩）は、老獪な河井継之助が時間を稼ぎ反攻の準備をするのだらうと解釈、これに応じず、遂に官軍と長岡藩の間の戦闘が始まったのです。ガトリング銃（今の機関銃のような武器）等を用い抵抗をしたものの長岡藩は火の海となり、継之助は会津に逃れようしますが、官軍の銃弾を受けた傷がもとで死んでしまいました。

・同じ官軍との戦いにおいて、長岡藩と庄内藩は命運を分けたのですが、私は長岡藩に派遣された軍監の岩村、庄内藩に派遣された軍監黒田清隆、この二人の差が大きな鍵だったのではなかったのかとも思っています。さて、私が長岡藩の偉人と言われた河井継之助のことを書いた司馬遼太郎の「峠」と言う本を初めて読んだ時に、河井継之助のことを若いのにしっかりした若者だなあと思ったのですが、二度、三度と読むうちに読後感が変わっていき、河井継之助にエゴイステックなところはなかったのかと考えるようになりました。

いずれにしても、長岡は「米百俵」の小林虎三郎や、日本海軍の山本五十六元帥等、偉人を輩出しています。

さて、明治四年、敗戦存亡の運命を背負い、辛苦を続けてきた庄内藩中老の菅実秀に初めて会見した西郷と菅の両翁は、百年の知己のごとくに肝胆相照らすにいたったと言われていました。

鹿児島市の西郷隆盛の生家と、酒田市の「庄内南洲神社」には2人が向かい合い坐している立派なブロンズ像が祀られています。明治五年西郷の勧めで酒井忠篤公そして弟の忠宝もドイツへ留学しました。（明治六年には政変のため西郷は下野していた）

明治10年の「西南の役」では勉強のため鹿児島に行っていた庄内藩の伴兼之（18歳）榊原政治（16歳）も、帰鶴を進められ

るも西郷軍と一緒に闘い、戦死してしまいました。鹿児島市の高台にある南洲神社には異様と思えるほどの墓群が南洲翁を囲むように重臣を初め林立しています。私はこんなに圧倒されるような壮大なお墓の群は見た事がありません。折しも、「肉を切らせて骨を切る」それは切るといふより、骨を砕くという剣法の自顕流のデモンストレーションの席で太い木剣を丸太に打ちつけている少年少女の裂帛の気合と姿に圧倒されていました。

南洲神社には戦死した伴、榊原の二人の若者のお墓もあり、案内の道標も立っています。（私の同級生の先祖です）

2人の庄内藩士のお墓は故郷庄内の北向きに建てられています（他の人々のお墓は桜島を向いて建てています）。明治22年2月、大日本帝国憲法は発布の特赦により西郷隆盛の賊名が解かれると、菅実秀は翁に接した面々が記録していた「西郷南洲翁遺訓」を編集し出版した。

そして、敬愛する偉人、西郷南洲翁の大徳を天下に広めるために六人の藩士がこの遺訓集を背負い、全国を行脚して有志に頒布しました。「西郷南洲翁遺訓」は鹿児島県で出版されたものと思われる人もいますが、我が山形県の庄内で作られたものなのです。今年は西郷隆盛の没後135年に当たります。

2. 経営に生かした「西郷南洲翁遺訓」

（明治10年9月24日 城山似て7カ月の戦闘の末戦死 49歳）

南洲翁遺訓は41章からなり、他に追加、問答からなりたっています。川合会長は13、14が特に印象に残られているということでした。（※13、14省略）

さて、私どもの当時の頭取、澤井修一は銀行経営に「西郷南洲翁遺訓」を取り入れ、経営に生かしました。例えば人の用い方であったり、賞与の与え方であったり……。私自身をご紹介したいのは、資料にあります1.、そして20の二つです。

（※別紙 省略）

澤井頭取の先祖は戸田務敏、私の先祖は和田光親と言いましたが、西郷南洲翁に漢詩をプレゼントしています。長い年月が経過したわけですが、遺訓は今の時代にも生き続けています。そして、今の世の中にも通用しますし、まさに人間としてのあり方や経営に生かせることが多いと思っています。

今、愛する日本は日本人としての誇りや、人の道、倫理道徳、礼儀礼節、加えて恥の文化まで忘れ去ろうとしていると思います。また今の世の中はデジタルが幅を利かせ、アナログはどこかに追いやられてしまっています。（決してデジタルが悪だと言っているわけではありません）ワープロ、パソコンで文字を忘れ、携帯電話の普及で相手の番号を暗記しなくてよくなり、またカーナビで路も覚える必要がなくなりました。「B29」「英霊」「真珠湾」……。これらの意味を問うた時に今の若者達の中には、信じられないような回答が出てきて笑えない話も……。今求められているのは、かつての日本人の心を取り戻すことではないでしょうか。そして、原点に戻ると言うことも。



○本日出席・前回修正出席

出席率100%ありがとうございました。引き続きご協力をお願いします！

	会員総数	出席義務会員数	出席会員数	出席率
本日	52名		32名	
前回修正	52名	43名	43名	100%
他クラブで メーカーアップ された会員	(中津) 武田 和夫 (山形) 坂入 文人 渋谷 一男 (山形北) 宮舘 順治 木村 政則 鈴木 政康 (山形南) 武田 秀則	川合 賢助 阿部 浩一 高梨 英吉 太田 昭一 相沢そのみ 鈴木 利明 鈴木 政康	金田 亮一 門脇 好広 寺崎 利彦 阿部 浩一 青山治右衛門 寺崎 利彦 阿部 浩一	相沢そのみ 伊勢 和正 坂入 文人 寺崎 利彦

土屋 敏夫君 今日のつばやき



突然の衆議院議員選挙!! 多忙の師走、どう過ごせるか? 我が日本、良い変革を望みたいものです。